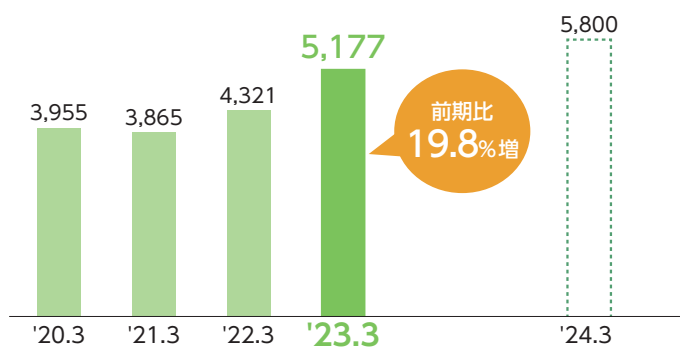


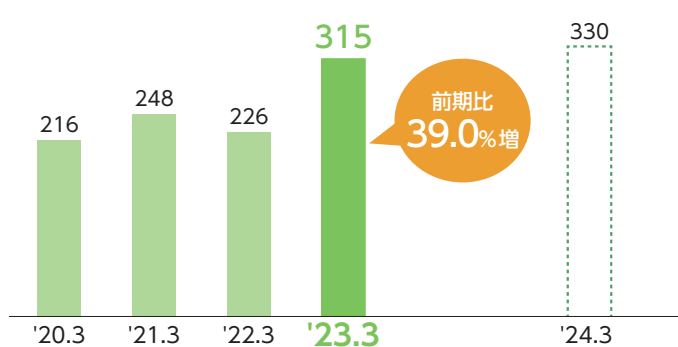
連結業績ハイライト

単位: 億円

売上高 **5,177** 億円



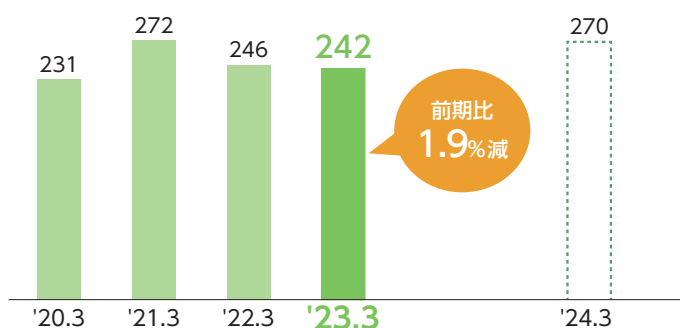
営業利益 **315** 億円



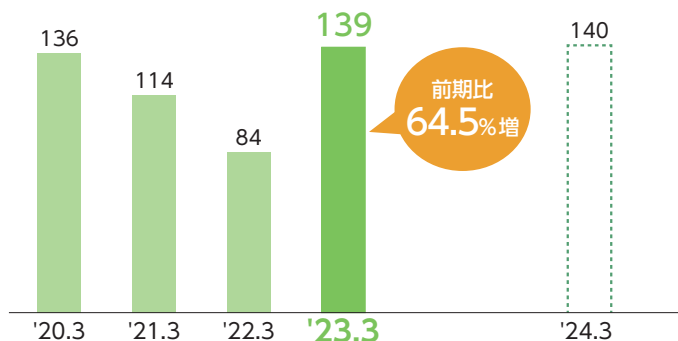
のれん等償却前営業利益

320 億円 (前期比34.5%増)

経常利益 **242** 億円



親会社株主に帰属する当期純利益 **139** 億円



のれん等償却前親会社株主に帰属する当期純利益

144 億円 (前期比52.0%増)

[2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)]

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
第2四半期(累計)	2,600億円	80億円	60億円	15億円
通期	5,800億円	330億円	270億円	140億円

TOP MESSAGE

2023年3月期の売上高・営業利益・当期純利益は過去最高となり、第五次中期経営計画目標を達成しました

平素より格別のご高配、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

世界経済は、新型コロナウイルス感染症による経済活動の停滞が緩和され、経済活動の正常化が進みました。しかし、ウクライナ情勢等に起因するエネルギーコスト増加などによりインフレが継続しており、先行き不透明な状況が続いています。

このような経済状況の中、当社グループでは、主としてハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売数量が増加していることや、トルコ拠点を連結化した影響に加え、為替の円安影響もあり、2023年3月期の連結売上高は5,177億35百万円、営業利益は315億円(のれん等償却前営業利益は320億74百万円)と過去最高となり、第五次中期経営計画目標を達成しました。経常利益は持分法による投資損益の悪化や支払利息の増加等により、242億13百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は固定資産や投資有価証券売却益などの計上もあり、139億25百万円と過去最高となりました。

長期ビジョン「Vision 2035」を策定。 第六次中期経営計画目標を着実に達成します

当社はこの度、長期ビジョン「Vision 2035」を策定しました。新しい価値を創出するために、モビリティ・社会インフラ分野においてカーボンニュートラルの実現に貢献します。そして、信頼できるエネルギーを届け続けることでみなさまの快適な生活環境を実現すべく、さらなる歩みを進めてまいります。

Vision 2035 達成に向けた最初の3年間として、2023年度～2025年度の第六次中期経営計画期間がスタートしました。この中期経営計画は当社にとって、この先の成長を実現するための土台作りの期間として非常に重要だと考えています。「BEV用電池の開発」「既存事業の収益力強化」「DX／新規事業の取り組み」の3つの施策を着実に実行します。

今後も常にステークホルダーから信頼され、世の中から必要とされる企業であり続けるために、GSユアサは止まることなく挑戦を続け、人と社会と地球環境に貢献することで次の100年へ向けた成長を遂げてまいります。

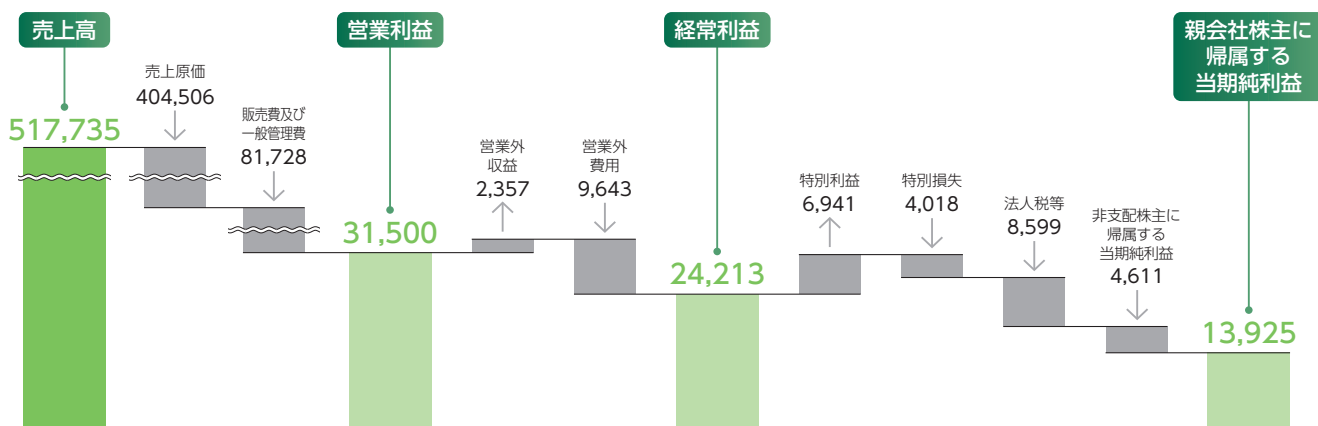
これからも一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役 取締役社長 **村尾 修**

連結損益計算書

[当期(累計)] (2022年4月1日～2023年3月31日)

(百万円)



Vision 2035 (長期ビジョン・第六次中期経営計画)を 発表しました

当社は2023年4月に2035年に向けた長期ビジョン「Vision 2035」および第六次中期経営計画を策定しました。Vision 2035では、創業者のDNAやこれまでの100年で培ってきた知見を礎として、次の100年に向けた「革新と成長」を実現するために「2035年のGSユアサのありたい姿」を示しています。

Vision 2035
WEBサイトはこちら



<https://www.gs-yuasa.com/jp/ir/plan.php>

2035年のGSユアサのありたい姿

GS YUASAは、4つの「Re」をキーワードにエネルギー技術の革新をすすめ、モビリティと社会インフラの成長による社会課題解決に貢献し、持続可能な社会と人びとの快適な生活環境を実現します。

Vision 2035

Reborn
Renewable
Reliable
Respect

4つの「Re」

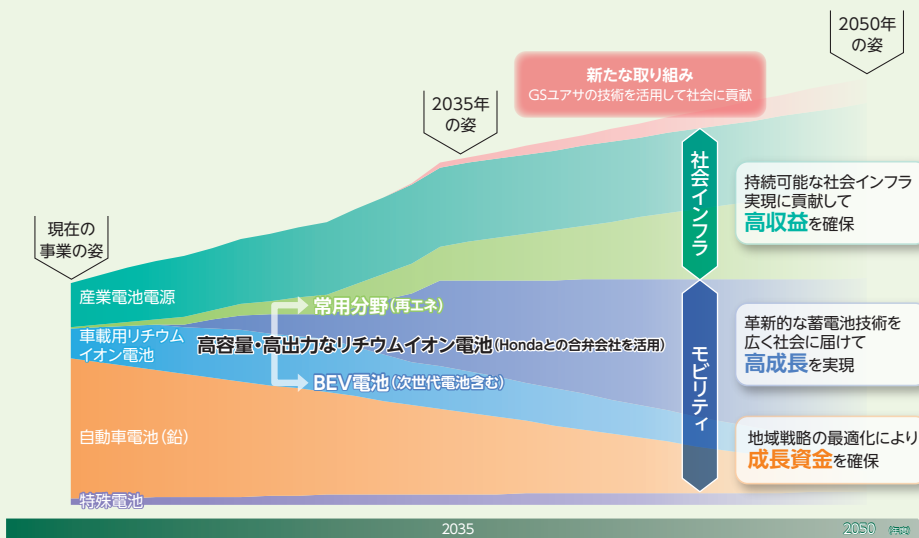
100年事業を実現した
創業者精神を呼び起こす

カーボンニュートラル実現へ貢献

技術革新にこだわり、
信頼できるエネルギーを届け続ける

SDGsへの取り組みを尊重し、
社会に貢献

Vision 2035 達成に向けて - 1



自動車電池事業は、利益率をさらに高め、成長分野への投資資金を確保します。

車載用リチウムイオン電池事業において、HEV用リチウムイオン電池は2030年代半ばまで拡大しますが、その後は徐々に減少していく見込みです。2035年・2050年に向けては、Hondaとの協業において「高容量・高出力なリチウムイオン電池」を開発し、BEV電池・再エネを中心とした常用分野に展開し、「モビリティ」と「社会インフラ」の2分野を拡大し、社会課題の解決に貢献します。

バックアップ用を含めた産業電池電源事業は、社会インフラを支える役割として継続して需要が見込めます。

加えて2035年ごろからは、これまで培った技術を活用し、社会に貢献する新しいビジネスを育てます。

Vision 2035の達成には、「革新すること」と「不変なこと」の2つの柱が不可欠です。

不変なことは、2人の創業者から継承した「革新と成長」という企業理念と、100年にわたり磨き上げた蓄電池技術の持続的な発展という技術革新へのこだわりです。

革新することは、事業領域と提供価値です。これまでは、鉛蓄電池やリチウムイオン電池などのモノをお客様にお届けしてきましたが、これからはモビリティ・社会インフラの分野で、モノに加えてソリューション&サービスも提供します。



HEV/PHEV/BEV用
リチウムイオン電池で培った知見



高容量・高出力な
リチウムイオンバッテリーに
関する研究開発



産業用で培った技術と
「ネットワーク」「フットワーク」

培ってきた技術力とR&Dの成果で 社会課題の解決に貢献

モビリティ

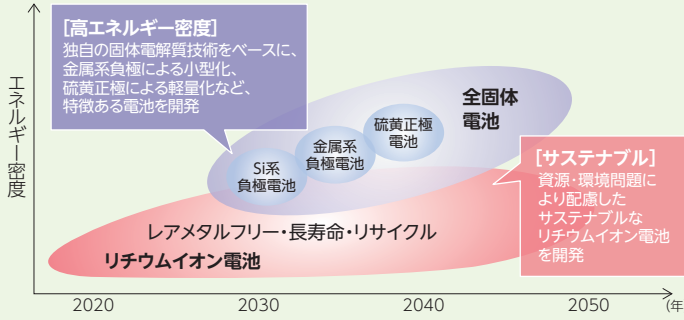
R&Dの成果を生かして、BEV市場に参入
BEV用リチウムイオン電池を中心にHEV、
PHEV、補機・バックアップ用にも供給

社会インフラ

拡大する常用市場におけるプレゼンスを拡大
電力、通信、情報など幅広い
社会インフラに最適な電池を供給

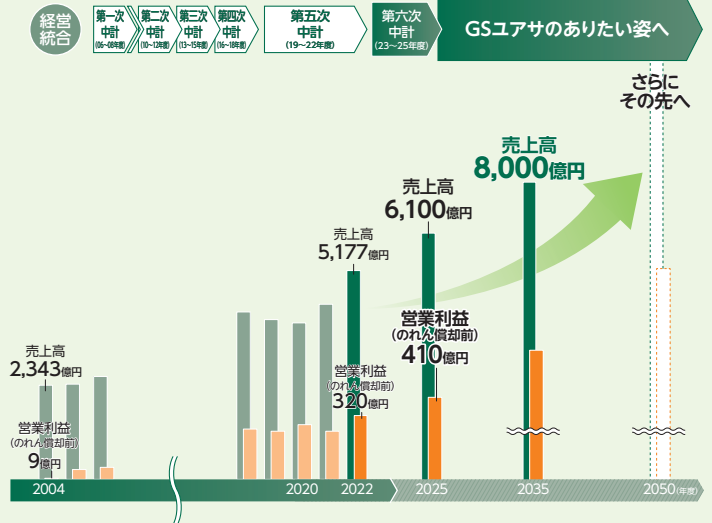
Vision 2035 達成に向けて - 2

■ 研究開発ロードマップ



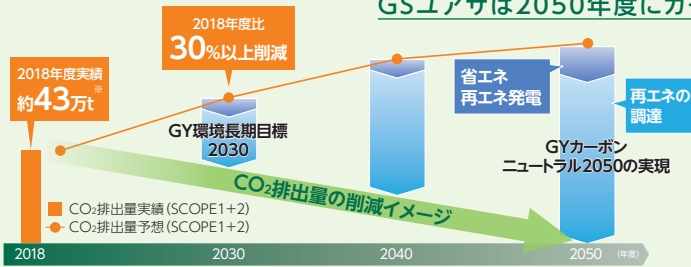
レアメタルフリー・長寿命化・リサイクルを実現する、資源・環境問題に配慮したサステナブルなリチウムイオン電池を開発しています。また全固体電池は高エネルギー密度を目指し、当社独自の固体電解質技術をベースに特徴ある電池を開発します。負極は、シリコン系の開発を推進するとともに、さらなる高エネルギー密度を目指し、金属リチウム系の開発を推進します。その先には、高性能・資源の埋蔵量が豊富なこと、低コスト化を狙えることから、硫黄を正極に適用する見込みです。

■ 事業の成長ストーリー



GYカーボンニュートラル2050

GSユアサは2050年度にカーボンニュートラルを目指します



*GSユアサグループのCO₂排出量集計基準を変更し、2018年度は再度第三者検証を受けています。
① 環境省、IEAから入手した2018年の排出係数を使用して再計算
② 算定基準として支配力基準を採用し、直接影響を及ぼすことができる連結子会社を算定対象

〈カーボンニュートラル達成に向けた取り組み〉

省エネルギー対策の推進	再生可能エネルギー発電の推進	再生可能エネルギーの調達
① 省エネルギー対応設備の導入	① 国内外の全事業所における導入の最大化	① 再生可能エネルギー由来の電力購入
② 効率的な充電処方の展開、新規開発	② 自社製品 (ESSなど) の導入や実証実験の実施	② 再エネ証書の調達

第六次中期経営計画 (2023年度～2025年度)

方針

Vision 2035 で描くありたい姿実現に向けた変革のための土台作りの期間と位置づけ、事業構造変革に向けた諸施策を実行します。

実行施策

1 BEV用電池開発

- ▶ Hondaとの合併会社を活用した高容量・高出力なリチウムイオン電池開発
- ▶ モビリティ・社会インフラビジネス拡大のためのBEV用電池生産／供給体制整備

2 既存事業の収益力強化

- ▶ 徹底した付加価値創出と収益性改善
- ▶ 国内産業電池電源事業における圧倒的な優位性による利益の最大化
- ▶ 中国事業見直しを含む地域戦略の転換、主要拠点へのリソース集中と利益の最大化

3 DX／新規事業

- ▶ 事業構造転換を可能にするDX推進
- ▶ 社会課題解決に貢献する新規事業創出

目標

	第五次中計実績 (2022年度)	第六次中計目標 (2025年度目標)	差異
売上高	5,177億円	6,100億円以上	+923億円
営業利益	320億円	410億円以上	+90億円
ROE (自己資本当期純利益率)	6.5%	8%以上	+1.5pt
ROIC (投下資本利益率)	11.4%	10%以上	—
総還元性向	27.9%	30%以上	+2.1pt

	第五次中計実績 (2019～2022年度)	第六次中計計画 (2023～2025年度)	増減	
設備投資額	1,020億円	1,900億円	+880億円	
自動車電池	国内	124億円	120億円	△4億円
	海外	228億円	200億円	△28億円
産業電池電源	85億円	160億円	+75億円	
車載用リチウムイオン電池	296億円	1,050億円	+754億円	
特殊電池およびその他	286億円	370億円	+84億円	

(注1) 上記指標はのれん等償却前利益 (営業利益・当期純利益) に対するものです。
(注2) ROICは、のれん等償却前営業利益÷投下資本 (固定資産のれん等除く)+運転資本) で算出。投下資本は期首と期末の平均値です。

セグメント別目標		2022年度実績		2025年度目標		増減	
		売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
自動車電池	国内	878	65	1,000	70	+122	+5
	海外	2,473	133	2,400	170	△73	+37
産業電池電源		992	88	1,400	110	+408	+22
車載用リチウムイオン電池		653	19	1,100	60	+447	+41
特殊電池およびその他		180	13	200	0	+20	△13
合計		5,177	320	6,100	410	+923	+90

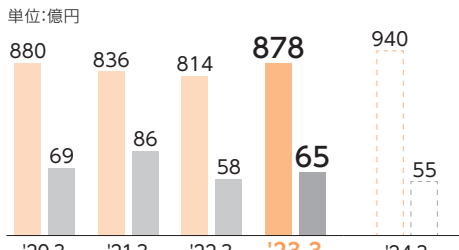
(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益です。

セグメント別連結業績

自動車電池事業(国内)

売上高	セグメント損益
878億円	65億円
前期比 7.7%増 ↑	前期比 11.4%増 ↑

増収増益

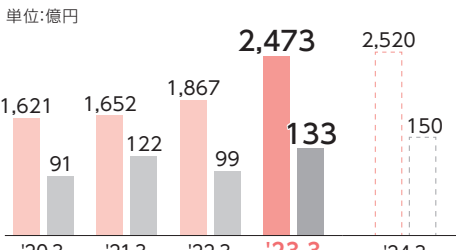


- ▶ 新車向け：新車メーカーの減産が徐々に回復したに加えて、売価見直しが進んだことで売上高が増加
- ▶ 補修向け：販売数量は減少したが、売価見直しなどの影響で売上高が増加

自動車電池事業(海外)

売上高	セグメント損益
2,473億円	133億円
前期比 32.4%増 ↑	前期比 33.9%増 ↑

増収増益

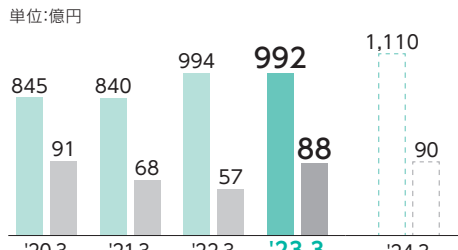


- ▶ 東南アジア：オートバイ用販売数量は減少したが、自動車用は堅調に推移
- ▶ 欧州：トルコ拠点の連結化により販売数量が増加
- ▶ 売価の見直しや為替の円安影響により売上高が増加

産業電池電源事業

売上高	セグメント損益
992億円	88億円
前期比 0.3%減 ↓	前期比 52.5%増 ↑

減収増益

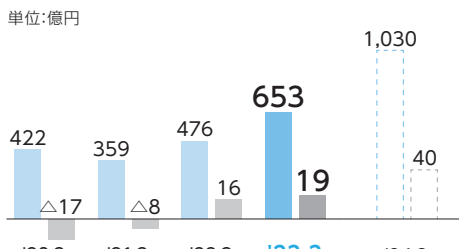


- ▶ バックアップ用(非常用)：官公庁向けを中心に売上高が増加
- ▶ 再生可能エネルギー用(常用)：系統連系用、事業所向けESSなどの販売が増加傾向
- ▶ フォークリフト用：販売数量が堅調に推移

車載用リチウムイオン電池事業

売上高	セグメント損益
653億円	19億円
前期比 37.2%増 ↑	前期比 20.1%増 ↑

増収増益

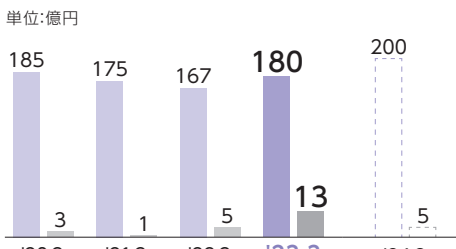


- ▶ ハイブリッド車用：販売数量増加、原材料高騰などに伴う売価見直しにより売上高が増加
- ▶ プラグインハイブリッド車用：販売数量は減少したが、原材料高騰などに伴う売価見直しにより売上高は増加

特殊電池およびその他事業

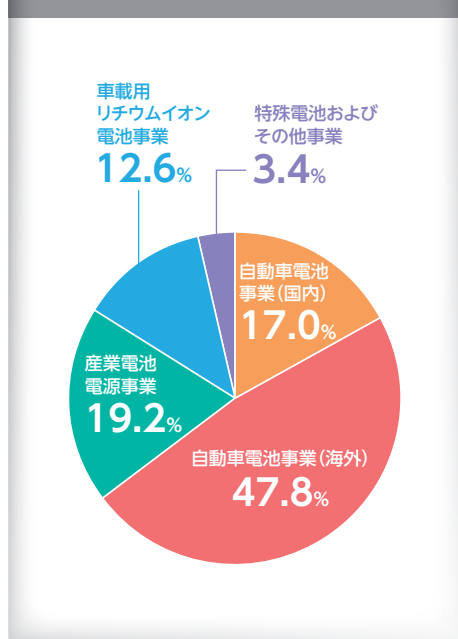
売上高	セグメント損益
180億円	13億円
前期比 7.5%増 ↑	前期比 139.3%増 ↑

増収増益



- ▶ 潜水艦用リチウムイオン電池：次世代潜水艦用リチウムイオン電池試作品を納入
- ▶ 航空機用リチウムイオン電池：エアライン(補修)向け販売数量が増加

売上高構成比



(注) セグメント損益はのれん等償却前営業利益です。

連結貸借対照表

[当期末] (2023年3月31日)

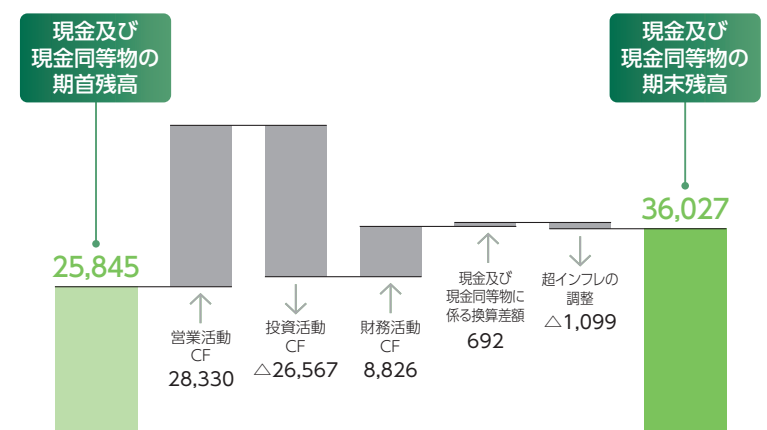
(百万円)

	資産	負債・純資産
流動資産	266,125 (49.2%)	負債 270,016 (49.9%)
有形固定資産	165,043 (30.5%)	純資産 270,890 (50.1%)
無形固定資産	5,240 (1.0%)	
投資その他の資産	104,470 (19.3%)	
繰延資産	26	
	総資産 5,409 億円	

連結キャッシュ・フロー計算書

[当期(累計)] (2022年4月1日~2023年3月31日)

(百万円)



●会社概要 (2023年3月31日現在)

商号	株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション (GS Yuasa Corporation)
事業目的	電池を中心とした事業を営む傘下のグループ企業の経営戦略を策定、統括し、グループの企業価値の最大化を図る。
設立	2004年4月1日
資本金	33,021百万円
本社所在地	京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地 電話(075)312-1211
ホームページ	https://www.gs-yuasa.com/jp/
上場金融商品取引所	東京証券取引所 プライム市場

●役員 (2023年6月29日現在)

〔株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション(純粋持株会社)〕

代表取締役 取締役社長	村尾修
代表取締役 取締役副社長	澁谷昌弘
取締役	福岡和宏
取締役	松島弘明
社外取締役	大谷郁夫
社外取締役	松永隆善
社外取締役	野々垣好子
監査役(常勤)	古川明男
監査役(常勤)	中川正也
社外監査役(非常勤)	藤井司(弁護士)
社外監査役(非常勤)	辻内章(公認会計士)

〔株式会社 GSユアサ(事業子会社)〕

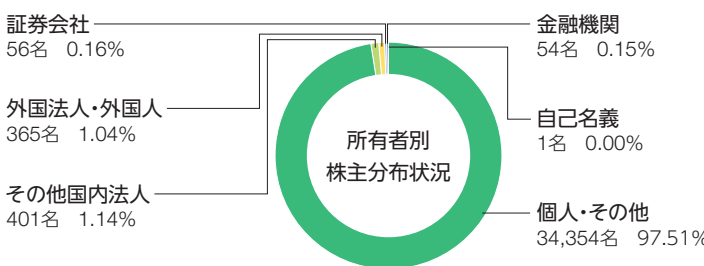
代表取締役 取締役社長	村尾修
代表取締役 取締役副社長	澁谷昌弘
常務取締役	奥山良一
常務取締役	谷口隆
取締役	福岡和宏
取締役	阿部貴志
取締役	大前孝夫
取締役	松島弘明
取締役	野瀬佳一
監査役(常勤)	古川明男
監査役(常勤)	中川正也
社外監査役(非常勤)	松山秀樹(税理士)

●株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会および期末配当:毎年3月31日 中間配当:毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
特別口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031(フリーダイヤル) [受付時間 9:00~17:00(土・日・祝祭日を除く)]
公告方法	電子公告とし、当社ホームページ(https://www.gs-yuasa.com/jp/ir/)に掲載いたします。ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

●株式の状況 (2023年3月31日現在)

発行可能株式総数	発行済株式総数	株主数
280,000,000株	80,599,442株	35,231名



大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	14,077,700	17.49
(株)日本カストディ銀行(信託口)	5,714,700	7.10
明治安田生命保険(相)	2,800,000	3.48
トヨタ自動車(株)	2,236,080	2.78
(株)三菱UFJ銀行	1,865,467	2.32
日本生命保険(相)	1,789,133	2.22
(株)京都銀行	1,548,069	1.92
三井住友信託銀行(株)	1,470,800	1.83
(株)三井住友銀行	1,421,703	1.77
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	1,220,800	1.52

※出資比率は、発行済株式の総数から自己株式数を減じた株式数(80,506,203株)を基準に算出しています。

株主 インフォメーション

○住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社等にお申出ください。なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

○未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

(注)1 本報告書に記載の金額は表示単位未満を切り捨てて、比率は四捨五入しております。
(注)2 本報告書に含まれている将来予測等は作成日現在において入手可能な情報に基づくものであり、今後様々な要因によって予測等と異なる結果となる可能性があります。

☑ IRメール配信サービスのご案内

当社のIRに関する最新情報をメールでお知らせいたします。

<https://www.gs-yuasa.com/jp/ir/irmail.php>

登録はこちらから



株主さまアンケート ご協力の御礼

「第19期 第2四半期 決算のご報告」にて実施いたしました株主さまアンケートに多数のご協力を賜り、誠にありがとうございました。いただいたご意見は今後のIR活動に生かしてまいります。